

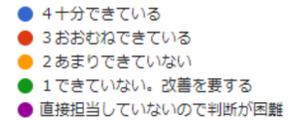
学校教育目標「自立して生きる力を育むために主体的に考え動ける人づくり」

1 社会的・職業的自立に向けて主体的に行動する意欲、力を育てる

- ①西神戸の職業体験、職業教育を基盤としたキャリア教育を推進する②障害特性に応じた指導方法による「わかる」「できる」授業
- ③命の大切さを知り、自他を尊重する豊かな心を育む ④自分とは異なる価値観、他者を認める柔軟な心、態度を育てる

2 信頼される学校づくりを推進する

- ①保護者、企業、地域、福祉等関係機関との連携をはかる ②教職員の専門性の向上をめざす ③コロナ禍における安心安全な教育活動
- ④働きがいのある職場づくり



	実践目標	具体的な取り組み	評価指標	達成状況	自己評価項目（教員）	成果と今後の課題		
学校運営	開かれた学校	学校の取り組みを保護者に紹介し、理解・協力を深める。	「西神戸だより」を通じて学校の取り組みを発信する。	「西神戸だより」を年間4回以上の発行をめざす。	12月上旬現在で、6回発行。年度末までに9回の発行を目指す。		今年度と同等回数発行と内容の充実を目指す。	
	開かれた学校	家庭や地域への情報発信	学校ホームページ、学校だより、学年通信等を通じて、学校の情報を可能な限り公表する。	年間を通じてホームページや学年通信等の定期配信を行えたかどうか	HP（ブログ）や学年通信等の定期配信を行った。楽メールやオンライン動画配信、Googleクラスルームなどのサービスを利用して、情報発信を行った。		年間を通じてHP（ブログ）や学年通信等の定期配信を行った。楽メールやGoogleクラスルームなどのサービスを利用して、情報発信を行った。今後も効果的に活用できるよう、環境整備を行う。	
	進路指導	卒業生の就労定着を支援する体制をつくる	卒業時に支援センター及び進路先に個別の移行支援計画をもとに、卒業生に関する情報共有を実施する。各関係機関と連携しながら、進路先を訪問し状況把握に努めるとともに、必要に応じて卒業生及びその保護者と連絡をとり、サポートを行う。	定着支援の取組みの中で得た情報を報告し、共有できたか。	年度当初より支援センターの担当者連携し、就労した卒業生の状況把握に取り組むとともに、夏季休業を利用した旧担任による企業訪問も予定通り実施した。得られた情報については、前期まとめとして職会(9月)にて報告を行った。		進路先への訪問や就労状況が安定しないケースについて、支援センターと連携し対応することができた。半期ごとに卒業生の就労状況を把握し、得た情報を報告・共有できた。より円滑な支援体制を実現するため、支援センターとの情報共有機会の設定、在学中からの連携や関係作りをどう進めていけるかが今後の課題である。	
		「自分らしく働く」を実現するための取り組みを進める	体験実習を実施する中で自己理解を深めながら、働くイメージや働く意欲を培う。生徒や保護者への進路ガイダンスを適宜行い、実態に応じた進路決定ができるようサポートする。	体験実習の準備・振り返りの中で、実習日誌やステップアップシートなどを活用し、より適切な目標設定や進路決定につなげることができたか。	限られた時間の中で、生徒からの聞き取りや実習後の振り返りなど丁寧に行うよう努めた。進路担当者間で情報共有を図りながら、実習先・進路先の設定・新規開拓を行った。		生徒・担任との面談や実習後の振り返り等の取組みを通じて、生徒の希望や実態の把握に努め、各種実習を計画・実施することができた。体験実習や就労に向けた取組みの中で、障害や本校生徒への理解を深めていただき、企業・事業所とよりよい関係を構築するための手立てを考えていくことが今後の課題である。	
	危機管理体制の整備	危機管理体制の点検を行う。	関係部署に「危機管理マニュアル」の点検をお願いする。	問題点となる事項を見直すことができたか。	気象警報発令時、大規模地震発生時の対応を改定。改定に沿うかたちで危機管理マニュアルも点検、見直しを行う。		大規模震災時の対応が整理された。改定すべき箇所は積極的に改訂できるようにしていきたい。	
		感染症対策に取り組み、安心安全な教育環境を整える	生徒保健委員会を活性化させ、生徒も共に主体的に取り組む	生徒保健委員会と協働し、学校全体で取り組めたか	生徒保健委員会が主体的にポスター掲示や環境管理を呼び掛け実践し、クラス全体で積極的な学校生活環境作りに取り組んだ。		感染症対策を通して生徒保健委員会を活性化することができた。今後も生徒と共に社会状況に応じた環境作りに取り組みたい。	
	センター的機能	地域と連携を図り、本校のセンター的機能の役割を果たす。	神戸市教委と話し合いを行い、担当・役割について共通理解を図る。	担当・役割を明確にし、センター的機能が組織的に活用可能な状態にあるか。	校長Tが近隣県特支リサーチ(～6月)。校長Tが神戸市教委へ情報発信を打診、承諾を得る。また本校のHPの相談案内の改善を提案(9月)。		地域の学校園及び保護者等と組織的な連携には至らなかった。組織的な連携体制作りが課題である。	
	勤務時間の適正化	校務・業務の適正化により、超過勤務を減らすように努める。	会議や校務など年間計画を活用し、見直しをもって取り組む。定時退勤日にはおおむね退勤する。	超過勤務を減らすことができたか。	11月末までに22回の定時退勤日の設定があった。退勤時間を見ると、17:10まで38%、18時まで28%であった。月別にみると4月19%、5月35%、6月34%、7月55%、9月70%、10月37%、11月48%。		定時退勤については、時期によって違いがある。業務の整理が今後の課題である	
	教育課程	教育課程	教育課程の整理	教育課程委員会で課題設定をする。	問題点となる事項を改善できたか。	LHR、道徳、総合、自立活動の時間数が適切であるか、職業と専門教科の評価方法を12月以降の教育課程検討委員会や教員会等で検討する予定である。		教育課程の内容と時数検討を継続していくことが今後の課題である。
		教育課程	各教科横断的な年間指導計画の検討する機会を設定する。	夏季休業中に会議設定をする。	改善につながったかアンケートを実施する。	各教科の指導内容配列表を作成し、学年でまとめて掲示した。全職員で確認し、教科による重複や移動を検討した。		各教科3年間を見通した指導内容の整理と検討が今後の課題である。
課題教育	生徒支援	適切なアセスメントに基づく、適切な指導を行う。	チームで実態把握を行い、障害特性の見直しを行う。	チームで障害特性の確認をし、新様式(仮)項目に基づき記載ができたか。	4月；特性・手だて検討。7月；障害特性一覧表を配布。8月；見直し。11月；自立活動評価分析提供。		新様式の項目に基づき、チームで根拠となる障害特性の特定の話し合いができた。特性に応じた有効な支援及び検討の継続が課題である。	

課題教育	生徒指導	いじめのない集団作りを進める。	日々の生徒観察、生活アンケート、いじめ未然防止プログラムに取り組みを通していじめの早期発見、早期対応に努める。	いじめ対策委員会でアンケートやいじめ対策委員会でアンケートやいじめ対策委員会の検証を行い、職員会議で情報共有を行う。	生活アンケートをまとめ、情報共有を迅速に行い、2次聞き取りにつなげた。また、アンケート結果の分析を行い、いじめ対策委員会および、職員会議でいじめの状況及び対応について情報共有を全職員で行った。また、いじめだけでなく長期欠席生徒や問題行動についても分析、対応を検討した。		生活アンケートからいじめを把握して対応できた事案もあり、早期発見早期対応につながっている。また、長期欠席生徒の情報も共有する中で分掌と学年が連携が強くなった。今年度のいじめ事案は12件13人であり、いじめはあることを前提に今後も丁寧な取り組みが求められる。
	特別活動 (生徒会活動)	生徒が主体的に取り組む行事、生徒会活動を展開する。	生徒会活動を中心として、クラスや学年の話し合い活動、委員会活動を充実させ生徒主体の取り組みを充実させる。	生徒会選挙や、委員会活動のまとめ、生徒会アンケートを通して、生徒の意見をすいあげる。	今年度は、様々な活動に向かうにあたって生徒の話し合い活動や、アンケートを通じた意見のすいあげを丁寧に行った。委員会活動の授業内の取り組みも2年目となり充実してきている。各行事や、生徒会との連携が課題である。		話し合い活動の充実により、生徒会活動及び、委員会活動、各種行事が生徒主体の取り組みとなりつつある。より自治的な活動となるよう取り組みを充実させていくことが課題である。
	保健教育	保健教育を通して生徒の健康管理能力を高める	がん教育支援事業モデル校1年目の活動として、全学年でがん教育に取り組み、知識の習得だけではない生き方の教育へと繋げる基礎を作る。	がん教育をはじめ、保健教育を通して生徒の健康管理能力を向上させられたか。	がん教育講演会の後、各クラスでグループワークを実施し、学習したことを生徒たちで共有し、行動変容の基盤作りをする機会を持てた。		がん教育を通して自分の生き方や共生社会といった視点から保健教育を行うことができた。今後さらに押し進めたい。
	人権教育	人権意識を高めるための人権教育の推進の土台作りを行う。	本校の人権課題を把握するとともに、計画的な研修の検討を行い、人権研修を充実させる。	人権課題アンケートを通して、本校の人権課題についての意見集約を行い、職員会議で情報共有を行う。	人権課題アンケートを実施し、本校の人権課題についての意見集約を行い、職員間で共有することが出来た。		計画的な研修に向けて、意見集約を行った内容を整理して研修計画の流れを作ることが今後の課題である。
	社会参加活動	各関係機関と連携し、サテライトディなどの実践的な学習を実施する。	育成するキャリア能力を明確にした体験活動の計画と実施を行う。	望ましいキャリア能力の定着が行われたか。	各コースとも、年間を通してサテライトディや地域のイベントへの参加を行い、実践的な学習を実施することができた。		実践的な学習を通して学んだことを進路指導につなげていくことが課題である。
		各種検定等に関する取り組みを通して生徒の学習意欲の向上を行う。	各種検定等に関する指導体制の確立を行う。	各検定に関する取り組みなど効果的に行うことができたか。	検定に向けて、練習の機会を設定し、多くの生徒が技能検定を受検することができた。		検定で学んだ基本的な技術を、現場に合わせて行うことが出来る応用力を、身につけさせることが今後の課題である。
	情報教育	これからの時代に即応した情報教育の推進	個人情報の取り扱いや使用上のルールを示し、ICTを活用した学習を可能にする環境作りに取り組む。	ICTを活用し、調べ学習など効果的な授業が展開できたか	情報収集などをタブレット端末で行うことで、調べ学習など効果的な授業が展開できた。Googleクラスルームを利用して、授業の資料配布や生徒の学習支援を行うことができた。		情報収集などをタブレット端末で行うことで、調べ学習など効果的な授業が展開できた。Googleクラスルームを利用して、授業の資料配布や生徒の学習支援を行うことができた。
	学年	・授業やワークを通して2年生からのコース選択につながるトライやる・JOB活動が実施できる。	・授業を通して、コースと企業との関係を学び、自分に合うコースを選ぶことができる。	・ワークや授業を通して、自己理解を深め、それをコース選択につなげることができたか。	ワークの授業を通し作業日誌で振り返ったり、検定等を行うことで自己理解を深め、課題を明確にすることができた。実習を体験し、具体的にイメージすることができた。		ワークや授業を通して、働くために必要な力を学び、自己理解を深めコース選択に生かすことができた。今後は、コースでの学びに繋げ、就労に向けた意識を高めているよう取り組みたい。
		コースの授業を通し専門的な学習に取り組み、就労に向けた力を養う。	コースにおける座学、実技指導、サテライトディに取り組む。	作業日誌、振り返りシートを活用し課題解決が行えたか。	コースの授業を通し専門性を養った。作業日誌、振り返りシートを基に、各自の課題を明確にし改善に務めることができた。		コース、サテライトディを通して、働く意識が高まってきている。今後も継続して取り組みたい。
		授業で培った働くための力を実社会で実践する。	サテライトディ、職業体験実習を実施する。	実習日誌や評価表を元に課題解決が行えたか。	コースで学んだ事柄をサテライトディや職場体験実習で実践することができた。現場で頂いた評価や課題をその後の活動に生かすことができた。		学習の振り返りを大切にし、サテライトディ、職場体験実習において、さらに学んだ力を実践できるように取り組みたい。
授業を通して、働くために必要な力を身に付け、自分で進路選択をすることができる。		コースや農園芸の授業で任された仕事を、自分で考え、周りに相談しやりきることができる。	作業日誌や外部評価を活用し、自分で進路選択をすることができた。	作業学習を通して、働くために必要な力を確認し、実践することができた。作業日誌や外部からの評価や課題を踏まえて、進路決定に活かすことができた。		外部での実習や作業学習を通して、働くために必要な力を確認し進路選択をすることができた。	